

図書館通信

静岡大学附属図書館報

No. 141

2002.10

- シリーズ“素晴らしい本の世界”
- 図書館時報（事務部長）
- シリーズ“！”第9回
- 電子ジャーナルに関するアンケート調査結果から
- 研修報告
- 教官著作寄贈図書一覧
- 図書館の動き



～私の出会った本～

“書々散策”



静岡大学長 佐藤博明

学長就任いらい私は、入学式の式辞で毎回、新入生に読書の薦めをしてきた。勿論、その時々で取り上げる本のジャンルや時代など、硬軟とりまぜてではあるが、20才を前後するこの時期に、彼らの心をとらえ、人生の糧になるに違いない本のあれこれをである。今年は、20世紀の叙事詩と称賛され、ピューリッツァー賞を受けたジョン・ダワーの『敗北を抱きしめて』（岩波書店）と大江健三郎の『自分の木の下で』（朝日新聞社）を薦めた。ともあれ読書は、この世に生きとし生けるもののくさぐさを、わけでも人間の営みとそこから紡がれる社会と歴史の曲折を、そしてその中で育まれていく人々の心・精神のさまざまなあり様を教えてくれるからである。そして何より、読書を通じて、若い瑞々しい感性が、作品に込めた作者の多様なメッセージを受容して、それを自らの成長の糧とし、知的エネルギーと豊かで強靱な“人間力”を鍛える源泉となる筈だと考えてのことである。式辞の原稿を書きながら、この部分はけっこう楽しい作業であり、また後日、新入生や同伴した親たちの反応とともに、それらの本が、学期はじめの生協・書籍部で“売れすじ”のひとつに

なっていることなどを聞くと、内心ほくそ笑んだりもする。

本の不思議さは、それを読むときの心の状態や問題意識によって、感じ方が微妙に異なるところにある。その意味で、読書とは、書く者が紡ぎだす＜言葉の力＞と、読む者の、それに感応する＜心の力＞とが綾なす共演の世界ではある。この人間にのみ許された知への誘いを存分に堪能するためにも、心が柔らかく、脳細胞のシナプスが活発に働く若い時期に、いろいろなジャンルの本、なかでも小説をたくさん読むことである。小説は、まちがいなく現実世界に生きる知恵と人間発見の宝庫だからである。

さて、私が最初に出会った衝撃の書はといえば、まず藤村の『破戒』（岩波文庫）をあげなければならない。高校に入ってまもなく、図書室から借り出して読んだ本である。ひたむきに生きようとする、信州の小さな町の教師・丑松が、俗に「穢多」とも「部落民」ともいわれる出自のために、いわれなき差別に苦しむ姿に涙ぼうだしたことを覚えている。そのときの衝撃は、いまでも鮮明に蘇ってくる。私が生まれ育った北海道の町では、そうした差

別が生活の周辺にも、人々の意識の中にもほとんどなかったためかもしれない。こんなことが現にこの世の中にあるのかという思いと、その理不尽さや社会の矛盾、不条理に言いようのない嫌悪を覚え、怒りが込み上げて止まなかった。それまでは、漱石の『坊っちゃん』や『我輩は猫…』など、軽いノリで小説の世界を楽しんでいただけに、『破戒』のそれは後頭部を突然ガンとやられたほどの衝撃であった。しかも、ずいぶん後になって、そうした差別が遠い明治の時代のことではなく、私たちの時代にも、就職や結婚などをめぐってなお残っていることを知り、ふたたびショックを受けた。

私じしんの精神史でいえば、小説・『破戒』から受けた衝撃は、1941年の国民学校一期生として、神国日本をひたすら信じ、第一級の軍国少年たらんとして自らを律し、鍛えてきた矢先、ある日突然、敗戦を境に、それまでの一切が虚構の、おぞましい悪夢として否定されたときのそれと同類のものであった。10才の少年が、それまで何ら疑うべくもない＜真実＞としてきたことが、全面否定されたときの心の傷は深刻である。そして今度は一転して、昨日までと同じ教師が、民主主義と新しい憲法の理念を説き、教科書・『くにのあゆみ』こそ歴史の真実だと教えられたときの戸惑いと混乱もまた、私の中では扱いに苦む新たな葛藤であった。そして、平和と人権、平等を戦後の新しい国づくりの理念とし、信ずべき価値として、(新制)中学校の教育の中ですり込まれた純真な心からは、その数年後に会った『破戒』の世界は、どうしても理解しがたいものであった。

以来、私の心の中では、身分とか階級社会がつくりだす差別的で抑圧的な事柄に対して、頑ななばかりの嫌悪感と反発が育っていたように思う。

小説・『破戒』は丁度、日露戦争のさなかの、1906年(明治39年)の作品であるが、藤村にとっては、ロマン主義からリアリズム文学に移っていく最初の長編小説として知られている。原理的には、四民平等の上に成り立っているはずの明治の近代社会にあってなお、人間に上下や貴賤の別をおく、非差別部落なる封建遺制の存在は当然、克服されるべき課題であった。事実、明治政府は、それまで「穢多」として身分差別をしてきた部落民を解放して、行政上は平民と同じ地位におくことを定めたが、現実にはこれを「新平民」と呼び換えただけで、社会

生活での事実上の差別と貧困はそのままであった。その点にこそ、藤村がむけた告発の矛先があったが、小説では、最後に主人公・丑松が、生徒たちの前に土下座して自らの出身を告白し、心を残しながらも新天地を求めてテキサスに渡ることをもって結末とした。確かにそれは、問題の根本的解決という点で、藤村の限界ではある。しかしそれでも、当時の私にとっては、人権や平等を新しい価値とする戦後日本の社会像と重ね合わせて、藤村の発したメッセージは強烈であった。それは、今日にいたる私じしんの精神的なもの、思想的なものの母斑となっていることはまちがいない。

やがて大学に入って手にした、自由な知の世界の中で、人間とは何か、そしてその人間が無数のきずなで結ばれている社会とは、さらに世界とは何か、を訊ねる旅が始まった。その道程で、クロード・モルガンの『人間のしるし』と『世界の重み』(岩波現代叢書)に出会ったのである。第二次世界大戦中のフランスの抵抗運動の中で、みずから＜世界の中心＞と自覚しつつひとりの人間が、その重みに耐えて歴史を切り拓いていく姿に、心を揺すぶられたことを覚えている。この小説を機に、＜社会的存在＞としての人間の生き方と、それに繋がる世界をみる目が少しずつ形を整えてきたように思う。

こうしてみると、とくに青春期に出会った幾冊かの本が、一人の人間の精神形成、人生観・世界観に決定的な影響を与えうることを改めて痛感するのである。

最後につけ加えれば、私の専門分野との関係では、ゲーテの『ヴィルヘルム・マイスターの遍歴時代』やトーマス・マンの『ブッテンブローック家の人びと』があり、また日頃のストレス解消には、寝ざわによく読む池波正太郎や藤沢周平のものがいいし、市井の沁み入るような人情の機微を描く山本周五郎の世界や、ドキュメンタリータッチの吉村昭のものなどが好きである。読書の楽しみはやはり、人間とその社会が織りなす広く奥深い世界にふれ、自らを自在に遊ばせることであろう。…とまれ「書々散策」の道は尽きない。

【紹介された本】 (静=静岡本館/浜=浜松分館)

『敗北を抱きしめて』 静・浜 開架[210.76/D89/1-2]

『自分の木』の下で』 静・浜 開架[914.6/O18]

『破戒』(島崎藤村集) 静・浜 開架[918.6/G34/13]

『坊ちゃん』『吾輩は猫である』(夏目漱石集)

静・浜 開架 [918.6/G34/17]

『人間のしるし』

静・閉架 [953/MO44]

『世界の重み』

静・閉架[953/MO44]

『ヴィルヘルム・マイスターの遍歴時代』静・開架
[943/G56T] 浜開架[908.3/40/20](世界文学大系シリーズ)

『ブッデンブローック家の人びと』

静・開架 [943/MA45/1](トーマスマン全集)

※教科書『くにのあゆみ』昭和 21 年、日本書籍より発行されたものを複製したものが日本図書センターより 1997 年第 2 版として発行されている。(静・閉架[375.93/MO31/1-2])

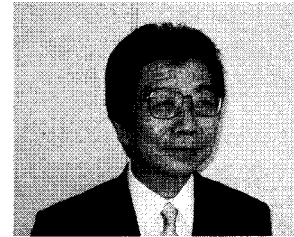


詩を読むことの「科学的」効用

まだあげ初めし前髪の／林檎のもとに見えしとき／前にさしたる花櫛の／花ある君と思ひけり…

ご存知、島崎藤村『若菜集』中「初恋」、冒頭の一節である。もう還暦も間近かだというのに、この詩をそっと暗唱すると私は胸がまた熱くなる。中学 2 年生のとき、ひとを想いそめ、同じ境遇にあった友人と密やかに声を合わせてこれを歌い甘酸っぱい幸せにひたった、あのときのことが昨日のように思い出されるからである。だが、ここで書こうとしているのは自分の初恋の思い出ではない。詩をとくに暗唱で歌うことは、社会科学の勉強にすこぶる効用があるという話である。

社会科学を学ぶということは、ごく簡単にいえばある意味で、社会現象について論理的思考をこらす、その訓練をするということである。論理的思考をこらすのは西洋古典古代以来の思想伝統に照らしていえば弁証法ないし論理学や修辞学（より古くは雄弁術）の課題であって、つまりは筋道を立てて考え、考えたところを説得力をもって他人に向かって表現することに他ならない。ここまではいわば論理の範囲内である。ところが社会科学は自然科学とは違ってそれで終わらない。数学者・藤原正彦の言い方を借用すると、経済政策や福祉政策を決めるのは、最終的には論理ではない。ある具体的な政策を採用するというのは、想定可能な数ある論理（≒複数の正解）の中から最も本質的なものを選び出したり価値判断を加えたりす



附属図書館長 大江 泰一郎

る能力の問題であるが、じつはこの能力は、数学に代表されるような論理的思考そのものではなく、むしろ家族愛、郷土愛、祖国愛、人類愛、卑怯を憎む心、もののあわれ、他人の不幸への感受性などといった「情緒」、そこから得られる「価値判断」（優先順位づけ）に支えられているところがまことに大きい。こうした情緒や価値判断の能力は、現実の生活体験（例えば今日ではなかなか得がたい戦争や貧困のつらさの経験）を別とすれば、文芸作品の読書によって涵養されるほかはない、というのである（朝日 2002/6/15）。この政策に関する議論は法の解釈についてもほとんどそのまま当てはまる。論理と価値判断との関係は昔の学生はウェーバー／マルクス問題という形で学んだものであって（例えば大塚久雄『社会科学の方法』岩波新書、参照）、藤原の主張もとくに目新しいものではなく、ごく正統的なもの言いだといって差し支えない。

私が研究上専門としている法学の場合、問題はさらに複雑になる。政治学でもことがらの性質は同じであるが、法律上の制度たとえば法人という概念は、多数の人間の結合体を、想像（言い換えれば擬制つまりフィクション）にもとづき、人々の約束（民法という法律）に即して、基本的に自然人と同じ一個の法的人格(a moral person)として扱うことに、その特色がある。憲法上の国民主権ないし人民主権という概念、いや法律上の実に

多くの制度が、こうしたフィクションに根ざしている(来栖三郎『法とフィクション』東大出版会、1999年、参照)。日本国憲法前文は国民主権を「人類普遍の原理」と呼んでいるが、この思想の定礎者ジャン=ジャック・ルソーは、よく知られているようにそれを「社会契約」によって成立するものと考えた。社会契約の締結は歴史学の方法でその実在を証明できるものではなく、あくまでフィクションに過ぎない。ところが周知のように、この思想が人々によって共有され、あのフランス革命において歴史を転換する決定的な役割を演じた。擬制が歴史を動かしたのである。あるルソー研究者はこうした思想つまり擬制の巨大な役割を「集団的想像力」という概念で説明している。例えば電車内で老人や身体障害者に席を譲るのは目の前で立っている人はつらいだろうなという人の想像力から発する行動であるが、その同じ想像力がいわば多数の人々の胸の中へと広がって歴史を転換する力をもつに至ったのである。ルソー自身の言葉の中からこの想像力を表すものを求めれば「ピチエ」(憐れみの情)ということになるだろう。それはルソー自身の言い方を借りれば、「人間同胞が苦しんでいるのを黙って見ていられない」という生得の感情(『人間不平等起源論』第1部)、つまり藤原の言う情緒ないしその延長上にあるものに他ならない。重要なことは、18世紀のフランス人は社会契約が擬制であることを承知しながら、その擬制を新しい社会の建設に生かした(生かすことができた)ということであろう。だとすれば、いささか飛躍するように聞こえるかもしれないが、社会現象のより深い(つまり論理といわば「時代の「情緒」」との結びつきへと達しようような)理解のためには、ひいては現代のわれわれが日本という国で国民主権の原理をほんとうに現実化するためには、情緒や想像力(他人の痛みを識る力)を鍛える必要があり、そのためには文芸に親しむのが不可欠の道だということになるであろう。

法曹になる「ために」は司法試験に合格する必要があるが、良き法曹になる「ために」は受験参考書を暗記するだけではおよそ足らず、こうした

情緒ないし想像力を鍛えなければならないが、その「ために」はいわば非論理的で情緒に満ちたフィクションたる文芸作品とくに生活の具体的な追体験を核とする小説に親しむ他はないということになる(数学者の先輩によれば数学の場合にも想像力が欠かせないということだが、その説明は今の私にはできない)。しかし、こうした効用論はじつは言葉通り「ためにする」議論に他なるまい。本当の読書の楽しみは、そういった効用論から解放されて文芸作品に秘められた芸術的真実に触れる(共感する)こと自体にあるだろう。私にとっては藤村の「初恋」の暗唱がその最初の一步であったと言えるかもしれない。私は詩を作る人を羨ましく思うが、自分にはその能力が欠けている。しかし、ピアノの名手の演奏を聴いて音楽美を享受することが楽器を弾けない者にも十分可能であるように、詩の世界に遊ぶことはできる。

詩は凝縮され象徴化された表現に依拠する文芸であるから、読者には小説よりもさらに想像力を逞しくすることが求められよう。だがよほどの天分に恵まれているのでなければ、こうした想像力の訓練には練達の導き手が欠かせない。一例として、茨木のりこ著『詩のこころを読む』(岩波ジュニア新書、1979年)をお勧めしたい。自らも詩人である著者は、詩を読むことそれ自体の楽しみを教えてくれるに違いない。読書はしかしこちらから始めるのでなければ成り立つことのないすぐれて能動的な行為である。「手にとって読みなさい」(Tolle et lege)。万卷の書物は図書館にある。

(人文学部/比較法文化論)

【紹介された本】(静=静岡本館/浜=浜松分館)
『若菜集』(島崎藤村集)

静・浜 開架[918.6/G34/13]

『社会科学の方法』

静・開架新書[304/088]浜・新書[081/I95SB]

『法とフィクション』 静・浜 開架[321/KU79]

『人間不平等起源論』(世界の名著)

静・開架[080/SE226/30]浜・開架[080/SE22/1(30)]

『詩のこころを読む』 静・浜 開架[911.5/I11]

図 書 館 時 報

石 川 護



激増する入館者

平成14年4月から8月まで5か月間の入館者数は、前年同期と比較して大幅な増加を示しました。(表)

特に、静岡本館における7月の入館者は53,487人を数え、平成13年7月と比べて20,393人も増えています。恐らく、これは過去最高の記録であろうと思います。「試験期間だから」、「今年の夏はとくに暑かったから」(要は図書館が涼しいから)など要因はいくつか考えられますが、状況的には昨年と今年とではことさら大きな変化はないはずです。強いて挙げれば、昨年度末に閲覧機と椅子を部分的に更新したことは変化と言えますが、このことがこれほどの増加に結びつくのかは疑問です。

ここはむしろ、「静大の学生は勉強するようになった!」と前向きに捉えるほうが正解ではないかと思います。この調子で勉学に勤しんでいただきたいものです。

浜松分館の伸びは緩やかですが、この最大の要因は閲覧席が少ないことにあるのは明らかです。常に混雑して、座りたくても席が空かない状況が続いています。申し訳ないけれども、増築が叶う

まで辛抱していただくようお願いするほかないという、残念な状況になっています。

日曜・祝日開館(試行)を実施

この7月から開始した日曜・祝日開館(土曜時間延長を含む。)の試行は、大変な反響と好評をいただいています。本館・分館を合わせた9月8日時点の総入館者数は10,561人を記録し、その内354人が学外の一般入館者でした。

今回は試行ということでもあり、事前に十分な宣伝活動ができませんでしたが、人伝えに聞いてかなりの時間をかけて来館された方が多数おられます。

アンケートの結果、一般来館者からは異口同音に今後の本実施を望むとの声が圧倒的でした。いかに、大学図書館の利用を希望されている方々が多いかを改めて実感させられた次第です。

試行の期間は残り少なくなりましたが、今回の反響を踏まえて10月からは本実施に移行するよう検討を始めています。学生の皆さんもご期待ください。(この号が発行される頃には、たぶん実施していると思います。)

(附属図書館事務部長)

(表)

平成13・14年度

月別入館者数

本館

	4月	5月	6月	7月	8月	計
平14	23,373	27,998	26,521	53,487	13,938	145,317
平13	17,208	22,124	24,164	33,094	7,735	104,325
差し引き計	6,165	5,874	2,357	20,393	6,203	40,992

分館

	4月	5月	6月	7月	8月	計
平14	18,807	27,306	26,616	36,515	10,015	119,259
平13	19,185	28,686	28,456	30,439	6,599	113,365
差し引き計	-378	-1,380	-1,840	6,076	3,416	5,894



シリーズ “!” 第9回

日本の雑誌論文、図書を探すには・・・???

今回は日本で発行された雑誌論文、図書を探すツールの紹介をします。

図書館ホームページの右側下の いろいろな資料を探す方へ [静岡本館](#) [浜松分館](#) をキャンパスにあわせて選んでクリックしてください。

図書を探す方は・・・[図書・雑誌を探す](#)をクリック→[BOOKPLUS](#)をクリック

雑誌論文を探す方は・・・[論文を探す](#)をクリック→[MAGAZINEPLUS](#)をクリック

MAGAZINE PLUS ...掲載雑誌のタイトル、論文のタイトル、キーワード、論文の著者名等から検索ができます。国立国会図書館・雑誌記事索引(1975-)に加え、戦後刊行の人文社会系の学術論文集などを含むデータベースです。

BOOK PLUS ...昭和元年より現在までに出版された本(絶版書も含む)についての検索ができます。

＊ ＊どちらもユーザ数が限られていますので利用が終わりましたら速やかにログオフしてください。

The screenshot shows the MAGAZINEPLUS search page. The top navigation bar includes links for '検索画面' (Search), '再検索画面' (Re-search), '一覧画面' (List), and '詳細画面' (Details). The main search area has a '検索条件入力' (Enter search conditions) section with instructions to enter search criteria in the provided fields. Below this, there are radio buttons for '全ファイル' (All files), '雑誌記事索引' (Magazine article index), and '学会年報・論文集' (Academic yearbook/essay collection). The '刊行年月' (Publication year) is set to 2002. The 'キーワード・著者名・雑誌名' (Keyword/Author/Magazine name) section has three input fields: '食品 安全' (Food safety), '食品と暮らしの安全' (Food and life safety), and 'ISSNから' (From ISSN). Each field has a 'キーワード' (Keyword) dropdown, a '著者名' (Author name) dropdown, and a '雑誌名' (Magazine name) dropdown. The 'キーワード' dropdown is set to '必ず含む' (Must contain), and the '雑誌名' dropdown is set to '含まない' (Do not contain). There are 'クリア' (Clear) and 'HELP' buttons for each dropdown. At the bottom, there are '検索' (Search) and 'オールクリア' (All clear) buttons. A callout box points to the search buttons, stating '検索語を入力したら検索開始' (Start search after entering search terms). Another callout box points to the search results section, stating '検索結果件数は画面上部に表示されます。一覧表示件数、表示順を指定して一覧表示。' (Search results are displayed at the top of the screen. Specify the number of items to display and the display order to display in list view). The search results section shows '321 件 ありました' (321 items found) and a table with columns for '表示件数' (Number of items to display) and '表示順' (Display order). The '表示件数' column has radio buttons for '20件ずつ' (20 items at a time), '50件ずつ' (50 items at a time), '100件ずつ' (100 items at a time), and '200件ずつ' (200 items at a time). The '表示順' column has radio buttons for '新しい刊行年順' (Newest publication year) and '古い刊行年順' (Oldest publication year). There are '再検索' (Re-search) and 'オールクリア' (All clear) buttons at the bottom right.

MAGAZINEPLUS
●最近2週間の雑誌目次(雑誌記事索引ファイル)
●最近1週間の記事タイトル(ジャーナルインデックス)

検索画面 再検索画面 一覧画面 詳細画面

検索結果 #0001~#0020 (349 件中)

1 新刊の形の「食」の安全と健康(4)BSE
2 農産物のインターネットを(インデックス)
3 農産物の安全と健康(4)BSE
4 特集1 タイのX表示から日本の食品を
5 特集2 タイのX表示から日本の食品を
6 特集3 タイのX表示から日本の食品を
7 特集4 タイのX表示から日本の食品を
8 安全無視で添加物を一括認可
9 遺伝子操作食品 印コンに問題発生 跡の
10 有機認定を上手に使う(4)「有機」と「無
11 有機認定を上手に使う(4)「有機」と「無
12 有機認定を上手に使う(4)「有機」と「無
13 有機認定を上手に使う(4)「有機」と「無
14 有機認定を上手に使う(4)「有機」と「無
15 有機認定を上手に使う(4)「有機」と「無
16 有機認定を上手に使う(4)「有機」と「無

食品と暮らしの
食品と暮らしの
食品と暮らしの
食品と暮らしの

ここで検索した論文が静大にあるかどうかは雑誌のタイトルでOPACで改めて検索をしてください。無ければ学外に複写依頼をすることも可能です(*)。

一覧の中から見たい論文を選び詳細を確認します。(すべて表示も可能)

詳細確認をしたい論文をチェック

検索結果 #0001~#0003 (3 件中)

1 だまされて! 多い順でないノースの原材料表示(特集1 タイのX表示から)
2 だまされて! 多い順でないノースの原材料表示(特集1 タイのX表示から)
3 だまされて! 多い順でないノースの原材料表示(特集1 タイのX表示から)

2 だまされて! 多い順でないノースの原材料表示(特集1 タイのX表示から)
3 だまされて! 多い順でないノースの原材料表示(特集1 タイのX表示から)

3 だまされて! 多い順でないノースの原材料表示(特集1 タイのX表示から)
4 だまされて! 多い順でないノースの原材料表示(特集1 タイのX表示から)

BOOKPLUS
●最近2週間の新刊書
●ベストセラーとその著者情報

検索画面 再検索画面 詳細画面 一覧画面 詳細画面

検索条件入力[標準検索]
下記項目の一つ以上を入力し、右または下の検索ボタンを押してください。
各項目に入れた条件同士はAND検索になります。

刊行年月(西暦)から無指定の場合は全件を検索します
2002 年 1 月 ~ 2002 年 9 月 クリア

キーワード・著者名・書名などから

記号学 キーワード 必ず含む クリア HELP
坂本 著者名 必ず含む クリア HELP
ISBNから 書名 必ず含む クリア HELP

キーワード、著者名、書名での検索ができます。

静大所蔵についてはOPAC検索をしてください。学内に無い場合は学外に貸出依頼ができます。(*)

検索結果 #0001~#0001 (1 件中)

1 記号学 『記号学大事典』坂本百大・川野洋・磯谷孝・太田幸夫編
柏書房 2002.5.15(詳細有)
493p 26cm(B5) ¥15,000(税別)
宇田万緑、古今東西の諸現象・諸所在を解説。各界150名の研究者を
参考文献一覧、事項索引、人名索引付き。

要旨 記号・サイン・信号・標識に関するもの。デザインに関するもの。記号学・記号学に関するもの。言語・言語学/文字・文字論に関するもの。研究者および関連人名・紋章・文様・旗・記章に関するもの。身振・動作に関するもの。態度・礼儀・作法に関するもの。芸術・文学・美術・芸術に関するもの。文化・民族・民俗およびその学問に関するもの。[ほか]

備考 ISBN4-7601-2188-9【日外整理No.B0220330】

詳細画面では1986年以降の本は内容・目次情報、小説あらすじを見ることができます。

*学外に複写・貸出を依頼する場合はWEB-CATでNC書誌IDを調べてから依頼をしてください。
申込用紙はレファレンス係カウンタにあります。教官についてはWEBから依頼ができます(要申請)。

電子ジャーナルに関するアンケート調査結果から



附属図書館では、平成 14 年 7 月 15 日から、8 月 7 日に「電子ジャーナルに関するアンケート調査」を実施しました。以下、この調査の結果報告です。なお、詳細集計については、附属図書館ホームページに掲載しましたので、そちらをご覧ください。

今回の調査は平成 13 年 5 月に実施した同様の調査に引き続いて行ったものですが、その違いは前回調査は電子ジャーナル導入時において実施されたものであり、今回の調査は導入後しばらくして実施されたものです。

アンケート回収率については、図書館委員をお手数をかけてできるだけ多くの回答をお願いしたのですが、回答数 346、全教員数の比率は 41% の回答率でした。

設問 1 は、電子ジャーナルを図書館のホームページから利用したことがあるかを聞きしたのですが、利用したことがあると答えた方が 48%、いいえと答えた方が 52% で、まだまだ利用が進んでいないと受け取れます。なお、いいえと答えた方の中には図書館のホームページ以外からアクセスされている方もおり、電子ジャーナルの利用は 56% になります。いいえと回答された方で、ホームページから利用できることを知らなかった、または電子ジャーナルの存在を知らなかったと答えた方が、あわせると 62% になります。図書館の広報不足は否めません。設問 5 のご意見にもありますが使いやすい形で提供することも重要な検討事項で、設問 2 (1) の図書館広報で知ったという方が 62 パーセントです

が、これを上昇させる努力が図書館の課題だという結果も出ています。

このアンケートで、設問 3 は利用していない理由を聞いているものですが、この内容から、今後なんらかの条件が整えば電子ジャーナルを利用する方（潜在利用者）は、全回答者中の 31% となり、現在、電子ジャーナルの利用者とあわせると 87% となります。電子ジャーナルの導入については、利用していただけるジャーナルを増やしていく必要があります。

設問 2 (2) は利用されている電子ジャーナルをお聞きしたのですが、電子ジャーナルの出版状況もあり、予想通り、理学、工学、農学が多かったのですが、人文社会科学の利用も 18%、医学薬学が 8% でした。医学薬学は様々な学問の境界領域となっているためと思われます。設問 2 (4) は利用頻度をお聞きしたのですが、使われている方は毎日のように使われているようです。平均的には週 1 - 2 回といったところでした。設問 2 (4) は電子ジャーナルの利用した感想をお聞きしたのですが、利用される方は非常に役に立った (56%) の結果がでていますが、一方では、必要な電子ジャーナルがない (17%)、利用したい分野の電子ジャーナルが少ない (15%) があわせて 32% もあるとの結果が出ています。

最後ですが、アンケートにご協力いただきありがとうございます。今後の参考とさせていただきます。

(情報システム係)

研 修 報 告



著作権実務講習会

みなさんは図書館のコピー機で本や雑誌を複写するとき、著作権について考えたことがありますか？著作者は「自分の創作したものを無断で人に利用されない権利」をもっているのですがその権利を制限する条項が著作権法にあることで、コピーが可能なのです。もちろんどれだけでも自由にコピーできるわけではなく、決められた条件のもとで、複写できる範囲や部数も決められています。(著作の一部分を一人につき一部のみ)。

今回の講習会ではこのようなごく身近なことから電子媒体、電子資料と著作権の関係についてや今後の著作権法の動向などいろいろなことを聞いてきました。今回のこの講習会で得られたことを日々の業務に生かしていきたいと思っています。

(情報サービス課・レファレンス係 杉浦昭重)



視覚障害者サービス研修

視覚障害者サービス研修(県立中央図書館主催)は、7月24日に静岡県総合福祉会館で点字図書館や障害者支援機器展示室の見学も含め、行われました。出席された方々は公共図書館職員が多く、点字図書館職員や県立中央図書館職員と障害者の方を含めて総勢40名程でした。

視覚障害のある方は、先天と後天では図書に触れる機会が全く違い、図書館まで利用される方は全視覚障害者の1割にも満たないとの事です。しかし、利用される方がいるいないに関わらずサービス体制は整え

ておく事が重要で、視覚障害者として扱いを難しく考えず、健常者と変わらない自然な対応が望まれるようです。点字図書も国立国会図書館蔵書検索から新刊まで検索できるので、所蔵館を確認してからインターネットの“ないぶねっと”で相互貸借利用が可能です。遠隔地でなければ翌日には本が届くようなシステムになっています。(送料は無料)

視覚障害者の方からの意見ですが、パソコンを音声ソフトで利用されている方が多いので各機関のホームページには障害者向けのサービス等を文字ではっきり載せて(絵や写真は音声に訳せない)欲しいとの事でした。

(情報サービス課・情報サービス係 小林由佳里)



目録システム講習会(雑誌コース)

平成14年7月17日～19日の3日間、目録システム講習会(雑誌コース)に参加して来ました。

目録システム講習会の目的は、総合目録データベースの構成、内容、データ登録の考え方(入力基準)を習得することにあります。総合目録データベースに、雑誌のデータを入力する所蔵登録や書誌入力私の仕事の一つであり、WebcatやILLなどを通して静岡大学だけでなく全国の図書館利用者にもデータを提供することになります。今回の研修を通して、入力基準など、全国の図書館員が共通に理解していなければならないことや実際的なことを学んできました。今後この研修で学んだことを生かしていきたいと思っています。

(情報サービス課・分館サービス係 尾藤 泰代)

～教官著作寄贈図書一覧～

●本館受入

◇土隆一 (名誉教授)

静岡県の地形と地質: 静岡県地質図

20 万分の 1(2001 年改訂版)説明書 内外地図

閉架[455.154/TS25] <編>

◇小和田哲男 (教育学部)

今川氏の研究 清文堂出版

閉架[210.08/O93/1] <執筆>

今川氏家臣団の研究 清文堂出版

閉架[210.08/O93/2] <執筆>

武将たちと駿河・遠江 清文堂出版

閉架[210.08/O93/3] <執筆>

争乱の地域史: 西遠江を中心に 清文堂出版

閉架[210.08/O93/4] <執筆>

中世の伊豆国 清文堂出版

閉架[210.08/O93/5] <執筆>

戦国三姉妹物語 角川書店

閉架[210.48/O93] <執筆>

「先読み」と「決断」のにんげん日本史 講談社

閉架[281/O93] <執筆>

日本人は歴史から何を学ぶべきか 三笠書房

閉架[210.04/O93] <執筆>

歴史おもしろかくれ話 三笠書房

閉架[210.04/O93/B] <執筆>

《人物篇》日本の歴史がわかる本 古代～鎌倉時

代 三笠書房 閉架[210.1/O93/B1] <執筆>

《人物篇》日本の歴史がわかる本 南北朝時代～

戦国江戸時代 三笠書房

閉架[210.1/O93/B2] <執筆>

《人物篇》日本の歴史がわかる本 江戸時代～

近・現代 三笠書房

閉架[210.1/O93/B3] <執筆>

徳川秀忠: 「凡庸な二代目」の功績 PHP 研究所

閉架[289.1/TO360/S] <執筆>

豊臣秀次: 「殺生関白」の悲劇 PHP 研究所

閉架[289.1/TO930/S] <執筆>

戦国合戦事典: 応仁の乱から大坂夏の陣まで

PHP 研究所 閉架[210.47/O93/B] <執筆>

このリストは本学教職員により著作 (等) され図書館にご恵贈していただいた図書を一覧にしたものです。

明智光秀: つくられた「謀反人」 PHP 研究所

閉架[289.1/A330/S] <執筆>

奔る雲のごとく: 今よみがえる北条早雲 北条早

雲フォーラム実行委員会

閉架[289.1/H81H] <監修>

◇三浦孝 (教育学部)

だから英語は教育なんだ:

心を育てる英語授業のアプローチ 研究社

開架/閉架[375.893/MI67] <編著>

◇真田孝昭 (教育学部)

すぐカットとなる人びと: 日常生活のなかの攻撃性

大月書店 閉架[141.6/Z1] <共訳>

◇杉山公男 (農学部)

茶の機能: 生体機能の新たな可能性 学会出版セ

ンター 開架[498.5/C33] <他編>

◇山脇貞司 (人文学部)

介護と家族 早稲田大学出版部

閉架[369.26/KA21] <他著>

◇黒川みどり (教育学部)

共同性の復権: 大山郁夫研究 信山社

閉架[289.1/O95K] <執筆>

◇藤岡光夫 (人文学部)

現代の労働・生活と統計 北海道大学図書刊行会

閉架[350.1/TO29/4] <編著>

◇楊海英 (人文学部)

オルドス・モンゴル族オーノス氏の写本コレク

ション 国立民族学博物館地域研究企画

交流センター 閉架[022.22/Y51] <編>

ランタブ: チベット・モンゴル医学古典名著

大学教育出版 閉架[490.9/Y51] <編著>

◇村越真 (教育学部)

方向オンチは人生オンチ?! : なりたい自分へた

どりつくための方向感覚の磨き方

サンマーク出版 閉架[159/MU46] <執筆>

◇吉田和人 (教育学部)

生涯スポーツのための卓球テキスト: 書き込みな

がら自分で学ぶ めいけい出版

開架/閉架[783.6/Y86] <執筆>

◇大石惇、森誠 (農学部)

中国少数民族農と食の知恵 明石書店

閉架[389.22/O33] <編著>

◇高村ゆかり (人文学部)

京都議定書の国際制度：地域温暖化交渉の到達点

信山社 閉架[451/TA45] <編>

◇静岡大学情報系部会編

Let's enjoy computing：情報処理入門

学術図書出版社 閉架[007.6/SH94]

●分館受入

◇佐古猛 (工学部・物質)

超臨界流体：環境浄化とリサイクル・高効率合成の
展開 アグネ承風社 開架[431.3/SA43] <編著>

◇辻知章 (工学部・機械)

なっとくする材料力学 講談社

開架[501.32/TS41]

◇市川照久 (情報学部・情報社会)

情報処理システム入門 サイエンス社

開架[007.6/U81] <共編>

二十一世紀豊かな情報化社会の実現を願って：

教育の視点から 情報処理学会

開架[375/J66] <共著>

◇村越真 (教育学部・学校教育)

方向オンチは人生オンチ!?：なりたい自分へたど
りつくための方向感覚の磨き方

サンマーク出版

開架[159/MU46]

◇牧野紀之 (非常勤講師)

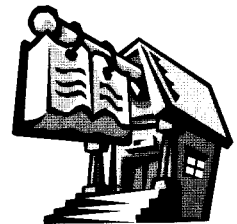
精神現象学 未知谷 開架[134.4/H51] <訳>

哲学の授業：考える楽しみ

未知谷

開架[107/MA35]

図 書 館 の 動 き



第49回国立大学図書館協議会総会

(平成14年6月26日(水)～27日(木))

於：鳥取県立県民文化会館)

附属図書館長、事務部長、情報サービス課長が出席。

今回の総会の焦点は、国立大学の法人化に向けて附属図書館の対応のあり方についてであった。第一日目は、各委員会からの活動報告後、平成14年度の事業計画等について協議が行われた。また、所管の文部科学省情報課長から最近の大学図書館をめぐる文科省の取り組み、国立大学の法人化の課題等の説明があった。引き続き行われた合同分會では、①国立大学の法人化に向けて、②電子ジャーナルを含めた学術情報の流通基盤の充実に向けた方策、③今後の国立大学図書館協議会のあり方について活発な議論が行われた。

二日目には、「大学図書館機能の新たな展開」をテーマに研究集会が開催され、各大学から発表があった。

その後、海外派遣者からの報告があった。

平成14年度静岡県大学図書館協議会総会

(平成14年7月24日(水)) 於：浜松市 当番館：浜松医科大学)

図書館長、事務部長、情報サービス課長、図書館専門員が出席。

平成14年度事業計画及び予算案などが協議され、事業計画については、加盟館の連携強化の方策として、実務研修会及び講演会を昨年度に引き続いて実施することとなった。また、県内大学図書館における電子ジャーナルの導入・整備について活発な意見交換が行われ、本協議会からの情報発進のためにホームページの立ち上げについても検討していくこととなった。

最後に、大学の設置形態が異なる図書館毎に、それぞれの図書館活動や協議会活動等についての状況報告が行われた。

2002年10月～2003年3月の開館日程表

本館 (静岡)

2002年10月						
日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

11月						
日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

12月						
日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25			

2003年1月						
日	月	火	水	木	金	土
		7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	
	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

2月						
日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24		26	27	28	

3月						
日	月	火	水	木	金	土
				1		
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11		13	14	15
16	17	18	19	20		

□ 開館 平日 9:00～22:00 土・日・祝日 9:00～19:00

□ 開館 平日 9:00～17:00 (冬季休業期間中)

■ 休館 年末年始等

※ 臨時の休館日は別途お知らせします。

分館 (浜松)

2002年10月						
日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

11月						
日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

12月						
日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25			

2003年1月						
日	月	火	水	木	金	土
		7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	
	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

2月						
日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24		26	27	28	

3月						
日	月	火	水	木	金	土
				1		
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11		13	14	15
16	17	18	19	20		

□ 開館 平日 9:00～21:00 土・日・祝日 9:00～19:00

□ 開館 平日 9:00～17:00 (冬季休業期間中)

■ 休館 年末年始等

※ 臨時の休館日は別途お知らせします。